

文章表現法 ③

2020年9月21日(月) 増田 泉

前は論理的文章と文学的文章の違いについて確認しました。言葉の名付け、具体と抽象について考察し、短歌と一行詩も扱いました。今後学ぶ文章の多くは論理的文章ですが、この機会に文学について興味をもてた人、読んでみるとよい本を買問してきた人も多く、皆さんの学ぼうとする気持ちに刺激を受けました。

〈課題A〉複数の人が挙げた歌人を表にしました。

| | |
|---------------------|--|
| 与謝野鉄幹 1873-1935 | 京都府岡崎町出身で与謝野晶子の夫である。1896年に「東西南北」、1900年に「五足の靴」を発表した。本名は寛。 |
| 正岡子規 1867-1902 | 代表作は『歌よみに与ふる書』。俳句「柿食えば鐘が鳴るなり法隆寺」の作者。 |
| 山川登美子 1879-1909 | 与謝野鉄幹の東京新詩社に参加。「明星」の主要歌人。与謝野晶子、茅野雅子と「恋衣」を出版。「白百合」と題する131首の歌が収められている。 |
| 佐佐木信綱 1872-1963 | 歌誌『心の花』を発行する短歌結社「竹柏会」を主宰し、木下利玄、川田順、柳原白蓮、相馬御風等、多くの歌人を育成。 |
| 長塚節 1879-1915 | 「明星」廃刊後、石川啄木とともに「スバル」の創刊に尽力した。歌集『わかき日』を刊行。正岡子規に師事。『土』は彼の代表作。 |
| 島木赤彦 1876-1926 | アララギ派歌人。正岡子規の影響を受け、短歌における独自の写生論を展開した。歌集『馬鈴薯の花』を発刊。 |
| 森山汀川 1880-1946 | 歌人の島木赤彦を知り、短歌を専念しはじめた。また島木赤彦、太田水穂と共に歌誌「比牟呂」を創刊した。 |
| 清水比庵 1883-1975 | 歌誌『二荒』を創刊、主宰となる。また「慈悲心鳥を聴く会」を主催し、「歌人町長」と呼ばれた。 |
| 若山牧水 1885-1928 | 代表作は『別離』。『みなかみ紀行』で群馬県にも訪れたこともある。 |
| 北原白秋 1885-1942 | 代表作は『雲母集』。歌以外にも『ゆりかごのうた』などの童謡謡を作詞した。 |
| 柳原白蓮 1885-1967 | 大正から昭和時代にかけての歌人。「幻の華」「指鬢外道」「地平線」などで知られる。白蓮事件で知られる。 |
| 平塚らいてう 1886-1971 | 「青鞥」を創刊した。婦人参政権運動に尽力し、第二次世界大戦後も女性解放・反戦平和運動に活躍した。 |
| 石川啄木 1886-1912 | 社会思想に目覚め、和歌の革新を志し、口語を交えた3行書きで表現した。与謝野鉄幹、晶子を師事した。 |

コメントの追加 [1]: 与謝野晶子(1878-1942)と同時期の歌人を挙げる課題には、多くの歌人の名が挙がりました。鉄幹は先頭にしましたが、他の歌人は生年順です。また、表にある以外に

森鷗外(1862-1922)

大塚楠緒子(1875-1910)

丹羽洋岳(1880-1944)

岩谷莫哀(1888-1927)

斎藤茂吉(1882-1953)

萩原朔太郎(1886-1942)

折口信夫(1887-1953)

江口章子(1888-1946)

原阿佐緒(1888-1969)

等の名前も、さらに、今井邦子、釈迦空、尾上紫舟等の名も挙がりました。よく調べました。

明星、アララギ、根岸等に関わった歌人を整理したり、歌人の人となり振り返ったりするのも、自分の見識を広げます。

| | |
|------|---|
| 課題 B | <p>選んだ詩：「ねぎぼうず」</p> <p>① ねぎぼうずを「ロケット」と表したのが、ねぎぼうずの形に合っていると思った。</p> <p>② ねぎぼうずの力強い生命力が、勢いのある「ロケット」とぴったりだと思う。</p> <p>③ ねぎぼうずが地底から地上に伸び行く様子を、ロケットが打ち上がるエネルギーとして表現していると思った。</p> <p>選んだ詩の題名：「海」</p> <p>④ 昔は栄えていたが現在は、廃れた街になっていて人気が無い。洋館のガラス窓が海からの潮風の影響をうけて破れた劣化が進む様子がイメージできる。</p> <p>選んだ詩の題名：「ラッシュアワー」</p> <p>⑤ 今の時代は電子切符が当たり前で、改札口に駅員さんが立っていることもあまり見かけないが、この詩の時代から考えてみると駅員さんがラッシュアワーの混雑な時に切符を切る鉄で指を切ってしまうくらい忙しいのだと思った。</p> <p>⑥ 「指が切符と一緒に切られた」と表現していることで、駅がすごく混んでいて忙しい様子を表している。「指が切られた」と比喻を使っていることで強調されていることが分かる。</p> <p>⑥ 指は切符と一緒に切られることはないが、混雑が表現されている。</p> |
| 課題 D | <p>例) ライオン→肉食動物→哺乳類→生物</p> <p>洗濯機 →電化製品→機械 →工業製品</p> |

コメントの追加 [I2]: 「ねぎぼうず」「ラッシュアワー」「海」それぞれ選ばれていました。イメージできるものも人それぞれです。

コメントの追加 [I3]: 忙しさやあわただしさのたとえです。

コメントの追加 [I4]: 課題 C は省略します。言葉の名付けに書き手の判断や評価が含まれることが分かったようです。

コメントの追加 [I5]: ルンパ⇒掃除機⇒電化製品⇒機械というように、商品名を入れて完成させた人もいました。

感想もいくつか紹介します。

- ① 私は今回の授業で、「一行だけの詩」がとても印象に残った。今まで、国語の授業などで詩は沢山読んだが、一行で表現する詩はあまり目にする事はなかった。一行から沢山の事を想像し、推測することができる。一行から多くのことを考えることができるのがすごいと感じた。
- ② 言葉の抽象化が難しいと感じた。日頃からより多くの言葉に触れることが必要だと思った。
- ③ 今回の授業では、主に言葉の使い方について学んだ。論理的文章では多様な解釈がされないよう定義は明確にし、文学的文章ではいろいろな表現法を用いることがわかった。言葉の定義のずれから生じる誤解は、日常生活において思い当たる節がたくさんあったので、議論などでは定義のすり合わせが重要になると感じた。
- ④ 今回の授業を受けてみて、短い文がもつ意味の重さについて学んだ。今まで国語の授業で詩を読み、それについての感想を述べるといったことをしていたが、久しぶりに詩や短文にふれることで、文字の力について再確認した。
- ⑤ 本を読むときや文章問題を解くときに、細かい一文をあまり意識せずに読み進めたり、飛ばしたりして取り組んでいた。今回の授業を教訓に小さな部分にも留意して込められた意味を見出せるようにしたい。

さあ、では本日の内容に入ります。次の頁です。教科書も準備しましょう。言葉の名付けからです。先週も扱った内容です。

1 言葉の名付け（2）

一定の共通目標を達成するために、成員間の役割や機能が分化・統合されているひとまとまりの集団。またはそれを組み立てること。

上のように言われて、何のことを指しているかすぐにわかりますか。

広辞苑などの辞書では、一言で次のように表現します。

組織

こう一語で表現できれば、頭の中にすっと入ります。

このように、複雑な状態を一語で言い表すことを「名付け」と言います。この名付けの仕方に書き手の判断や評価が入ると先週確認しました。

人間は、言葉で物事を考えます。物事には名前がついています。しがたって、人間が物事を考える時には、絶えず名前をつけて判断します。

「名付け」は、物事を正しく考えるための基礎になります。逆に言えば、「名付け」がいい加減であると、物事を正しく考えて判断できません。

課題 A 次の定義を述べた語句を一語で表してみよう。

- ① 南を向いたときに西にあたる方。
- ② 大気中の水蒸気が高所で凝結し、水滴となって地上に落ちるもの。

名付けの重要性は分かったと思います。

さらに今日は、文章中によくありがちな、「名付け」を避ける言い方についても考えましょう。

皆さんは、文章を書いていて「こと」をよく使いがちです。大変便利な言い方です。

「ということが」「となることが」「分かったことは」等々、誰もがよく使いますが、ここにも実は「名付け」が必要なのです。

この頁でも「こと」（下線付き）が何回か出てきます。これも、実は「内容」なのか「事物」なのか「行動」なのか、できるだけ言い換えるとそれだけ分かりやすくなります。「こと」は使わずに書き換えると、書き手の意図がさらに明確になります。

新聞でもインターネットの文章でも何でもよいから、一度見直してみて、何に言い換えられるか練習してみるといいでしょう。

コメントの追加 [泉6]: 「こと」を使わずに文章を書くと思うと、何度も書き直しをしないとイケないくらい難しいです。正確な「名付け」をせず、曖昧なまま使っていることに気がきます。

ほら、そう言いながら、名付けせずに「こと」と書いていますね。すべて別の言葉で言い換えることは難しいですが、言い換えができるか名付けられるかを意識すると、言葉の使い方に注意がいきます。やってみてください。

2 論理的思考の基礎

そもそも論理的文章を書く際に必要な論理的思考とは何でしょう。

論理的思考の初期の段階は、大きさなどの順番や前後などの位置関係が分かる、時間の順序やものごとの手順、ルールが分かることです。

課題 B 上から順に積み木の色を書きましょう。

赤は、青の上です。

白は、赤と緑の間です。

課題 C 情報を整理して答えましょう。

としさんのくつ箱はどこですか。番号で答えなさい。

ア よしえさんの場所は、右から三列目です。

イ まりさんの場所は、上から二段目です。

ウ としさんとよしえさんは、同じ列です。

エ としさんの場所は、たけしさんの隣です。

オ たけしさんの下は、あきお君の場所です。

| | | |
|----|-----|---|
| ① | さとし | ⑦ |
| まり | ④ | ⑧ |
| ② | ⑤ | ⑨ |
| ③ | ⑥ | ⑩ |

3 2つの論理的思考

論理的思考は、現在、2つの型が知られています。

(1) 演繹的思考と帰納的思考

演繹的思考は、主に数学やコンピュータで活用されています。

帰納的思考は、自然科学全般で使われています。

「**演繹的思考**」は、古代ギリシャのアリストテレスによって体系化され、中世ヨーロッパで展開された推論の方法です。「演繹的思考」は「言葉と言葉の関係をとらえる」思考といえます。現在では、数学や記号論理学としてコンピュータに利用されています。

「**帰納的思考**」は、17世紀の前半、イギリスのフランシス=ベーコンが発見した推論の方法です。ベーコンは、自然を観察し、実験を工夫すれば世の中のすべてのことを正確に理解できると主張しました。観察や実験を行い、複数の具体的事例から共通の性質を発見する推論の方法で、「事物と言葉の関係をとらえる」思考といえます。現在では、自然科学全般に利用されています。

コメントの追加 [泉7]: 共通の言葉を使うとき、人々は共通の言語規則に従って思考しています。言葉が、それを使う人々にとって共通の思考の枠組みをもった記号なので、お互いに予定を確認したり、行動を共にしたり、感動を共有したりすることができるわけです。この共通の思考の枠組みを、「論理」と呼びます。

コメントの追加 [泉8]: ここにも「こと」。もういい加減にやめましょう。あまり気にしすぎると文章が止まってしまうです。

コメントの追加 [泉9]: 「さとし」は図にあるのに、「たけし」は図にはない。それなのに、説明には「さとし」が出てこない。「問題文の間違いではないか」と心配せず考えましょう。問題文は間違えていません。考えれば分かります。

コメントの追加 [泉10]: クイズみたいですね。このような論理ドリルを繰り返すのも、論理的思考には重要です。論理的に筋が通る言い方、文章の組み立てに慣れるためです。

コメントの追加 [泉11]: 教科書にも同じことが書かれています。ここでも説明します。

コメントの追加 [泉12]: 三段論法、弁証法もあります。調べてみるといいです。

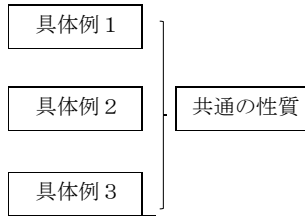
2つの論理的思考を図示すると、下記ようになります。

①演繹的思考



命題1 ソクラテスは、人間である。
 命題2 人間は、必ず死ぬ。
 命題3 ソクラテスは、必ず死ぬ。

②帰納的思考



日本のカラスは黒い。
 カナダのカラスは黒い。
 中国のカラスは黒い。
 } 全てのカラスは黒い。

コメントの追加 [泉13]: 教科書にも同じ図があるはずです。確認しておきましょう。

(2) 演繹的思考とは何か

演繹的思考は、命題（真・偽を判断できる主語1つ、述語1つの文）をつないで、考えを進めます。命題が主語1つ、述語1つなのは、判断を混乱させないためです。

命題1は、ソクラテス（個別性）が人間（一般性）の一部だと判断しています。

命題2は、「人間は死ぬ」という一般性を判断しています。

命題3は、ソクラテス（個別性）が「死ぬ」（一般性）に含まれる（逃げるできない）と推論しています。

このように、個別性を一般性の中に位置づける考え方が「演繹的思考」です。古代の人は聖書や聖人の言葉（一般性）によって、自分の生き方（個別性）を決めようとしたので、このような思考法が発達しました。

練習 命題といえるのはどちらでしょう。
 イ 山田西高校は、よい高校である。
 ロ 山田西高校は、山田市にある。

コメントの追加 [泉14]: この練習と同様の問題が教科書にもあり、答えが確認できるようになっています。
 この練習問題は課題ではありません。自分でやっておきましょう。

練習 次の（ ）の中に、推論できる命題を書きましょう。
 けいこさんは、7歳になった。
 7歳になると、小学校に入学する。
 （ ）

(3) 機能的思考とは何か

帰納的思考は、複数の具体的事例から、共通する性質を導き出す思考です。人物のいろいろな行動から、その人の性格を推論する思考も、帰納的思考です。私達は、日常いつもこのように帰納的思考を用いて行動しています。

天気予報や地震の予知、その他自然科学の知識はすべて、過去の経験を一般化したものです。現代では、帰納的思考を用いてさまざまな現象の予知と対策を進め、人間社会とその生活をよりよい方向に導こうとしています。帰納的思考では100%の正しさを確定できませんが、観察・実験の技術の進歩で、日々精密な推論に近づいています。

課題 D どちらのグループに入るでしょう。

- ①「ナイフ」 イ のり・セロテープ・ホチキス
 ロ つめきり・はさみ・ほうちょう
- ②「池」 ハ 海・港・波
 ニ 村・林・森
- ③「あり」 ホ ちょう・はち・とんぼ
 ヘ みみず・いもむし・へび

日本で「帰納的思考」を最初に説いたのは、物理学者の寺田寅彦です。当時の東京帝国大学は演繹的思考による哲学の講義が全盛時代でしたが、彼は帰納的思考による自然の観察、実験の重要性、権威を恐れない発表の大切さを、分かりやすい随筆でたくさん書きました。『寺田寅彦全集』全30巻（岩波書店）はその宝庫です。

紙ヒコーキを飛ばすときに、成功と失敗（試行錯誤）を繰り返しながら根気よく改善すると、だんだんよく飛ぶようになります。現在でも、ある大学の工学部の教授は学生に紙ヒコーキを作らせて飛ぶ工夫をさせ、工学研究とはこういう研究をするところだと教えるそうです。「帰納的思考」教育のよい例です。

今日はここまでとします。また来週!

コメントの追加 [泉15]: 教科書後半の練習問題では、寺田寅彦の文章を用いて説明しています。その問題の中から1つは必ず読んでおきましょう。
別の回で取り上げますが、何度も読んでおくと理解が深まります。

コメントの追加 [泉16]: 課題 E
本日の学習のまとめと感想を書きましょう。